（４）①様式第４号－２（報告書）

※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 鳴門教育大学 徳島県教育委員会，徳島県立総合教育センター
※機構記入欄 No. ：　-	セミナー名：【NITS カフェ in 鳴門教育大学】 学校リーダーのために 管理職に必要な資質の向上を図る

テーマ：「教員のキャリアアップのために～学校リーダー（新任教頭等）向け～」

小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学校リーダー（新任教頭等）を対象に本学教職大学院教員及び徳島県教育委員会等が講演・演習・シェアリングを行い，各校の実態・取組を検証することにより，リーダーシップ，判断力及び組織マネジメント・学校危機管理等の能力を高め，各学校における教育力の向上や組織の活性化を図る。

なお，企画にあたっては，大学側と教育委員会側の双方に，連絡窓口を設けることで，組織間の意思疎通が適切に行われるように工夫し，鳴門教育大学教職大学院が，とくしま教員育成指標「管理職用」の副校長・教頭に求められる資質・能力に基づき，新任教頭等がその時点で身についている力量を省察するとともに，現場の課題解決について意見交換を行い，今後の学校運営の改善に反映させる。

内　容：１．講　演「危機管理について」

昨今の学校現場は，様々な問題を抱えており，教師は日々対応に追われている。そうした中，児童生徒の安全を確保し，自らが危機回避に対応できる力が，今日の教員養成や教師教育において，喫緊で必須の内容である。特に，阪神淡路大震災や東日本大震災の災禍によって，「防災・減災」の必要性が叫ばれており，また，徳島県の教員の勤務地の多くは，南海トラフ巨大地震の影響を受ける可能性があるため，防災教育の取組は，重要な課題であり，教育現場からも強い期待と要請がある。

講演では、学校防災を起点として、地域防災意識を盛り上げることが重要と考え，地域と一体となった取組は，防災・減災につながるということを実感させ，各自が自分事として，常に危機意識を念頭に置き，それぞれの地域に応じた具体的な避難対策が求められていることを理解させ，見聞きした内容や情報等をもとに，さらに知識を深め，実際の学校現場等における防災活動に生かしていくことの意義が解説され，学校危機管理の必要性について，大きな成果が得られた。

２．グループ協議「自校の危機管理について」

南海トラフ巨大地震による被害想定が発表され，学校における防災が，喫緊の課題となっている。子どもの命を守るために，今学校で何が出来るのか，もしもの時にどう対応すればいいのか，学校全体で考えていかなければいけない。

また，学校における防災は、単に防災対策のみならず、地域との連携、生徒指導と密接な関連があり、教育の在り方そのものを変えていかなくてはならない。

そこで，所属校の危機管理に関する資料（マニュアル例，指導資料，校内文書，メモなど）をもとに，グループで協議した上で，コーディネート役の阪根教授が，どう対応すればよいか，その背景や対応策など指導・助言を行い，徳島県教育委員会及び徳島県立総合教育センターも実践の語り合いに参加して，発言を促し，話し合いを活性化させるために質問やコメントを行った。

３．講　演「危機管理マニュアルの作成に向けて」

東日本大震災では，個々の決断が生死を分けている。これはマニュアルどおりでは対応できないことの証明であり，大きな教訓として残された。

アクションカードとは、医療現場で使われるカードである。これは、緊急時に集合したスタッフ一人一人に配布される行動指標カードであり、限られた人員と限られた医療資源で、できるだけ効率よく緊急対応を行うことを目的としている。

元々、緊急時対応において、マニュアル本があっても、内容が膨大であり、意外に使いにくい。そこで、アクションカードは、１枚の「カード」に、個々の役割に対する具体的な指示が書き込まれており、緊急時に適しているといえる。現在、これを学校防災に取り入れることを、提案した。

成　果：受講者アンケートにおいて，「具体的でダイレクトに響く講演を受けることができた。危機管理では，管理職の視点から細部にわたって準備し，注意しておく必要性を再確認した。」，「常にアンテナを高く張り，危機意識をもって自ら動き，さらに人を動かしていかなければならないと強く感じた。」，「今日から実践できることがあったので，子供や教職員のために効果のある取組を一つずつ実行していきたい。」などの意見があり，４件法で「大変良かった」，「概ね良かった」と肯定的回答が 100％であった。

アイディアや工夫したこと：

①講演については，時間が限られているため，過去の危機事象を生々しい映像や新聞記事等で解説し，学校危機管理の必要性を十分に受講者に認識させた。
②グループ協議において，学びを深めるために，大学教員や指導主事が適切な質問をしたり，意見を述べたりする「足場がけ」を行った。
③他校のマニュアルを共有することで，自校の課題や改善点のヒントを得ることができるようにマニュアル作成に向け工夫した。
④学校の実態に合わせた危機管理の具体的なテーマによる簡易マニュアルの作成について，課題を出した。

<写真・図など>

（１）開催日時：平成 30 年 12 月 3 日（月）9 時 45 分～16 時 00 分

（２）開催場所：鳴門教育大学
施設の名称：総合学生支援棟（３階）　Ｆ会議室

（３）参加予定人数と参加者の属性
徳島県教育委員会教育政策課　１名
徳島県教育委員会教職員課　２名
徳島県立総合教育センター　４名
徳島県公立学校新任教頭等　７１名
鳴門教育大学教職大学院教員　４名

（４）進行プログラムの概要
１　講　演
「働き方改革について」
講師：徳島県教育委員会　教育政策課　主幹　佐藤　　貢
２　講　演（演習含む）
「学校組織マネジメントについて」
講師：鳴門教育大学　教授　久我　直人
３　講　演
「危機管理について」
講師：鳴門教育大学　教授　阪根　健二
４　グループ協議
「自校の危機管理について」
講師・コーディネート：鳴門教育大学　教授　阪根　健二
鳴門教育大学　教職大学院教員
５　講　演
「危機管理マニュアルの作成に向けて」
講師：鳴門教育大学　教授　阪根　健二

【 受付の様子 】

【 オリエンテーションの様子 】

【 講演：危機管理について 】

【 グループ協議の様子 】

【 グループ協議の様子 】

【 グループ協議の様子 】